

## 嬉野医療センターを受診された患者さまへ

### 研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	第76回 日本消化器外科学会 総会（発表予定セッション：要望ビデオ） 「Orvilを用いたhemi-DSTによる安定した腹腔鏡下食道空腸吻合手技」
研究責任者（所属名）	黨 和夫（消化器外科部長）
本研究の目的	腹腔鏡下の胃全摘術において、安定した食道空腸吻合法は長年の課題であったが、現在は多くの施設で概ね定型化している。用いるdeviceはcircular stapler（以下CS）とliner stapler（以下LC）に大別され、当初はCSが多く採用されていたが、現在はLCで行う施設が多くなっている。 当科では腹腔鏡下の胃全摘術における食道空腸吻合には、導入当初よりCSを用いており、現在もOrvilを継続して使用している。
調査データの該当期間	2015年1月から2020年12月までの6年間
研究の方法 （使用する試料等）	今回の「要望ビデオ」では、当科で行っているOrvilを用いた腹腔鏡下の食道空腸吻合の手術手技を動画で紹介することを主たる目的とした。 また、2015年1月から2020年12月の6年間に胃癌に対して胃切除術を施行した症例の中で、食道空腸吻合を行った71例を対象として、開腹群41例と腹腔鏡群30例の2群間での各種周術期パラメータの比較検討を行った。  具体的な検討項目としては、年齢、性、BMI、術前A1b値、PNI、最大腫瘍径、合併症、術後入院日数、TRPなどがあります。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120（代表） 担当者：管理課長
備考	